

我が国の創薬力の強化育成

東日本大震災10周年追悼式は3月11日、東京都千代田区の国立劇場にて出席者を大幅に減らして開催されました。多くの大切な命を奪った未曾有の大災害から10年が経過して被災地の復興は着実に進んではいますが、いまだ仮設住宅で不自由な避難生活を送られている方もいるなど、完全復興に向けた取組が引き続き求められています。

春の選抜高等学校野球大会が3月19日に開幕しました。昨年は新型コロナウイルス感染症の影響により春、夏の2大会とも中止となり、一年ぶりの甲子園球場での全国高等学校野球大会の開催となります。新型コロナウイルス感染症禍での開催となり、入場者数の上限やプラスチックによる応援禁止などの制約はありますが、全力でプレーする高校球児の姿は、自粛生活に疲れた国民の大いなる励ましになるものと思います。

さて、自由民主党は社会保障制度調査会の下に「創薬力の強化育成に関するプロジェクトチーム」を立ち上げ、3月4日に初会合を開きました。プロジェクトチーム（PT）の座長には橋本岳衆議院議員が就任し、私も顧問の一人として名を連ねることとなりました。PT立ち上げの引き金となったのは、今年初めてとなる薬価の中間年改定に係る党内議論でした。今般の中間年改定のみならず、これまでの薬価改定の度に大幅な価格引き下げが行われる一方で、製薬産業の育成強化に関する十分な議論が行われず、我が国製薬産業の新薬創出力が相対的に低下していることへの危機感があります。

もう一つは、今回の新型コロナウイルス感染症に対するワクチン開発の現状です。欧米の製薬企業が先行し、国内ではファイザー社製ワクチンによる接種が始まり、アストラゼネカ社やモデルナ社のワクチンも既に承認申請がされています。他方、国産ワクチンは臨床試験を始めたばかりの段階で、当面は海外からのワクチン輸入に頼らざるを得ない状況にあります。これからも新たな感染症の集団発生が危惧される中で、戦略物資とも言えるワクチンの国内開発体制の脆弱さへの不安感です。

厚生労働省は、新規モダリティ（高分子、遺伝子治療等）の実用化や技術進歩による創薬研究の高度化・効率化等の創薬環境の変化を踏まえ、日本の医薬品産業がグローバルな競争に打ち勝ち、海外から投資を呼び込む価値ある市場であり続けるべく、その方向性を示す新たな医薬品産業ビジョンを今夏までに取りまとめるとしています。

国内の医薬品産業の支援・育成の必要性や国内ワクチン開発における国の積極的関与の重要性については、私も国会審議の場でも度々取り上げ、政府に訴えてきました。今回の産業ビジョンが将来を見据えた挑戦的かつ戦略的な中身

となるよう、PTとして、しっかりと提言をまとめていかなければと思っています。